

地域懇談会における主な意見・提言

5月28日～6月12日に10広域圏毎に開催  
地域づくり、福祉、医療、環境、産業、教育団体等の代表者等240名が参加

分野	主な意見・提言の要旨
1	風力発電については、原子力発電所を造るよりも自然環境に優しく、地球温暖化防止にもつながるので、太陽光発電とともに風力発電を盛り込んでほしい。
2	誰もがコンセンサスとして地球温暖化等に気を遣う社会づくりを目指してほしい。
3	地球温暖化に対する意識を高めるために、地域内での情報交換や懇談会を開催するべき。
4	安全で安心な木質ペレットなどの新エネルギーを積極的に活用することにより、化石燃料の削減、地球温暖化防止、循環型社会の構築を目指してほしい。
5	地球温暖化防止のために家庭で取り組める対策について、わかりやすい啓発がなされるとよい。
6	地球温暖化防止、ゴミの減量等の環境問題について企業の関心は高い一方、一般の家庭に対してどのように啓発していくかが課題。
7	長野県地球温暖化対策条例の理念の実現を図ってほしい。
8	地球温暖化問題については、県全体で取り組んでほしい。
9	登山道の維持管理、整備について、関係者間でスムーズな情報交換を行い、民間や現地の意見も取り入れて実施していただきたい。
10	河川改修はコンクリートではなく、フナ等の生態系を大事に景観や自然環境にも配慮した改修をしてほしい。
11	環境を守ることが大事である。不法産廃業者がいるため、上小の環境破壊は産廃業者全体のマイナスイメージとなっている。その対策として産廃業者が住民へゴミに対する説明ができる関係づくりができるようにしてほしい。
12	廃棄物の適正な処理ができる体制づくりを環境行政の一環として行ってほしい。

13	山間地、中山間地について水資源の確保の観点からも維持が大事であるが、鳥獣被害が多いといった問題が多く、対策をとってほしい。
14	諏訪湖畔の利用関係の住民協定を進めていく上で、湖畔全体を統一的な形でとりまとめるためにも、県がイニシアティブをとってほしい。
15	諏訪湖の水質保全について、諏訪地域全体で取り組むべき事を示して欲しい。
16	大気保全のためには、ある程度強い規制が必要である。
17	諏訪湖のヒシの面積を調査し、対策をお願いしたい。
18	諏訪湖の堆積土とヘドロの除去について対策をお願いしたい。
19	大人も子どもも長野の環境のすばらしさを認識し、愛せるようにして欲しい。
20	環境問題は広域的な問題として捉えていく必要がある
環境	
21	諏訪湖の浄化について、県として数値目標は立てられるが、市町村単位では難しい。広域的な環境対策については、県が主導して行って欲しい。
22	高齢者が住みやすく、長生きできる信州ということをアピールするためにも、自然と共生し豊かな自然を守るためにお金を費やすことが必要。
23	環境重視の社会で事業者の取り組みも順次確立されているが、いくつもの指導體制がある。指導體制の窓口の一本化をしてほしい。
24	人々を癒すという点での、川、水という問題を計画の中に取りれていただきたい
25	希少動植物だけでなく、残されている貴重な自然を守っていくことも大切である。
26	地震による倒壊家屋からのアスベスト飛散対策の対応をお願いしたい。
27	環境保護や生物の多様性の維持についても計画で取り上げてほしい。
28	田、畑、森林すべて含めた里山の保全が必要。里山は、日本の大きな遺産であり、文化である。

29		環境施策は、目標数値を立てるだけでなく、具体的な施策が必要。
30		今、原生林の芽吹きが素晴らしい。自然を相手にしている産業をしている者にとって、自然環境は大切である。ブナの芽吹やぬけるような青空は素晴らしいの一語につきる。この素晴らしい青空と緑を守りたい。
31		環境教育が大事である。小5の授業で「森の仕組み」は時間がないからとカットされることが多い。森林教育に小中学校でも協力してほしい。
32	環境	レジ袋の有料化を行ってほしい。広域で環境をしっかり考えてほしい。
33		降雨時に、諏訪湖に流入する浮遊物の問題については、対応を一元化した上、効率のよい処理方法を考える必要がある。
34		地球温暖化や環境問題については、産業廃棄物や一般家庭のごみの処理が課題である。
35		エネルギー事業は、初期投資に補助するよりも、ランニングの部分に補助するほうが事業が成立しやすいので、そのような施策を考えていただきたい。
36		山に入る人数が減少しており、山が荒れてきている。人口減少、少子高齢化の進展により山の荒廃が進むことが心配される。
37		地球温暖化防止のため、温室効果ガス3.8%削減を森林の吸収で行わなければならない。これは良い山をつくらなければならないが、個人の山を中心に間伐が進んでいないので、行政が間伐の促進をしてほしい。
38		森林対策については財源不足になっている。森林を共通の社会資本と捉え、維持のため森林整備への補助をしてほしい。
39		森林整備は地球温暖化対策にも有効であり、力を入れて取り組む姿勢を木曾地域編では打ち出してほしい
40	森林	松くい虫対策について、観光、景観、自然環境の面から計画に盛り込んでほしい。
41		森林ボランティアは他地域の在住者が多いが、地域の人たちも関心をもって取り組んでほしい。
42		関心の高い健康づくりの面から、「森林セラピー」のPRや、休耕田を活用しての雑穀栽培・販路開拓はどうか。
43		森林は、治山・治水・地球温暖化等とも関係が深く、県土の8割を占める重要なものなので、そうした観点を県の全体計画に盛り込んで欲しい。
44		森林を管理し活性化するため、路網整備を急いで進めて欲しい。

45		森林を管理し活性化するため、多面的な利用価値のある広葉樹林に注目して欲しい。
46		民有林は個人の財産だが、森林には大切な公益的機能があるので、管理をみんなで支援するため、所有者への支援体制を整えて欲しい。
47		身近な森林で体験学習ができる体制づくりを。
48	森林	荒廃した森林の整備を進めるためにも環境にやさしいペレットストーブの普及を進め、木材の利用促進を支援してほしい。
49		山に行ったことがない所有者が増え、森林整備の前提となる境界確認がネック。境界確認への補助制度を復活してほしい。また、所有者に代わって森林整備を行う必要もあるので、財源を考えて欲しい。
50		手入れが行き届いた山はとても気持ちがいい。しかし、森林整備はデータで見ると広い面積をやっているように見えるが実感がない。計画期間中は里山を集中的に行ってはどうか。
51		北信地域は広葉樹林が多い地域である。針葉樹を先に整備しがちだが、先ず里山の広葉樹から進めるべき。また、子どもたちへ森林を活用した教育を行ったらどうか。
52		上田城や塩田平、別所線を観光の目玉にして道路や景観整備をし「観光地上田」にしてほしい。
53		稲田の棚田を人工的につくって維持・管理していくのは非常にコストがかかるのと同時に大変な作業である。景観面から重要なことであるが、その大変さがどこにも記されていない。そういったことを知ってほしい。
54	景観	人口減少時代に地域間格差や競争が生まれてくる。美しい景観を維持・発展することで、他の地域と差別化でき、地域が発展していく。地域ぐるみで景観の維持の取り組みをしていくことを求める。
55		市町村でまちづくりや景観の計画を策定する際には、地域の景観について幅広い有識者がいるボランティアグループも参画させて欲しい。
56		里山、ふるさと、田舎の原風景を守る必要がある。
57		県外の人から見ると、上高地やアルプスなど山のある風景は魅力。また、県内には世界的にも稀有なすばらしい町並みや景観が残っているので、景観保全に努めてほしい。
58		グローバル化の時代にあって、国際社会とダイレクトにつながるネットワークの構築が必要である。国際空港の整備が必要と思うが、御牧ヶ原台地を第1候補にしたらどうか。
59	商工業	上小地域は災害が少ない、活断層がないことを説明し、セキュリティを考えた企業誘致をしてはどうか。
60		諏訪地域は製造業を核とした地域づくりを行う必要がある。先端的産業の発展のためには、優秀な頭脳が必要であり、より付加価値の高い優秀な人材を輩出できる教育が必要である。

61	諏訪地域にある中小企業の多くが消えかかっているが、きちんとしたものづくりのためにも、産業育成に対する教育を支援するシステムづくりが必要である。（工業技術総合センター精密電子技術部門の充実など）
62	計画が絵に描いたもちにならないよう、製造業をはじめとする産業振興・中小企業振興が必須であり、産産連携、産学官連携、各業界団体の連携がより必要である。
63	下請企業、中小企業には景気回復の恩恵が届いていないのが現状である。不合理な商慣習を見直すことで、生産性向上の果実が中小企業まで行き渡るような施策を行い、中小企業の利益の確保ができる環境を整えてほしい。
64	中心市街地の活性化のためには、特色ある店づくりなどが必要であり、中心市街地の衰退を止めるには、県をはじめとする行政機関の支援策にもっと力を入れる必要がある。
65	諏訪地域はメーカーが少ないため、技術者の流出が問題である。魅力ある企業・産業づくり、ものづくりの基盤への支援とともに、工業メッセなどで魅力をPRすることが課題となっている。
66	高齢者の健康推進のために農作業を奨励したが、鳥獣被害により支障をきたしている所以对策をお願いしたい。
67	運輸産業は大変人手不足であるが、今の免許制度では、他国の免許の日本の免許への切り替えが難しく、運輸業では外国人ドライバーの受け入れが厳しい。また、外国人研修生の単純労働での受け入れができなくなり、運送業での外国人研修生の受け入れができなくなった。受け入れできるよう業種の内容の見直しをお願いしたい。
68	<b>商工業</b> 産業遺産を保存・活用することにより、地域のアイデンティティとして活かすことができるのではないかと。
69	国は、フィリピンからの看護師受入れを決定したが、いまだ実行されていない。県の中でそうした外国人の受入れ、育成ができないか、考える必要がある。
70	県外の人材を県内で活かせるように、各庁舎内に人材を確保できるような事務所を設けられないか。
71	工業団地について、静かな所に工業団地ができると、人が動いてにぎやかになったという反面、交通量や音で苦情を受ける。住民に配慮して工業団地はつくられると思うが、トラブルが起きたときに、もう少し行政として手を差し伸べていただきたい。
72	長野県工業技術総合センターについて、中小企業にとっては特に評価試験など公式データとして頂けて重要な位置づけであり、採算を犠牲にしても存続させて頂きたい。また、創業者支援センターのあり方については、見直しの必要がある。
73	海外駐在員事務所について、タイランドは進出企業数からテリトリーをインドネシア・シンガポール・マレーシアなどを含み再開して欲しい。
74	香港の海外駐在員事務所が深圳に移動したのはいいが、台湾やフィリピンをテリトリーにすると、上海の事務所は以北から韓国までがテリトリーとなる。駐在員二人を三人にしてでもカバーして欲しい。進出企業や、各企業の希望などを聞き取ってほしい。
75	テクノ財団と協調支援の形態で、「ものづくり」に取組む中小企業者を支援するための長野県版サポートインダストリアル法、中小企業ものづくり基盤技術高度化支援法を作りたい。

76		遊休耕地だけでなく優良農地についても大胆な見直しを行い、企業誘致を図っていく必要がある。
77		上伊那と下伊那で工業出荷額の差が開いたのは、県の工業政策の失敗であった。インターの周辺に県営の工業団地を造成し、環境に配慮した景気誘導型の産業を誘致していただきたい。
78		金を稼ぐ人と地域を守る人が分担していかないと地域が成り立たない。産業を振興してお金を稼ぐ仕組みを作り、稼いだお金を地域の発展のために使うようにしないと、税金を使うばかりでは地域が疲弊してしまう。金を稼ぐ仕組みを行政も民間も真剣に考えなくてはいけない。
79		地域に就職できるよう、景気を良くしていただきたい。
80		商工会での活動を自助努力で行っているところだが、県にも支援してほしい。
81		中小企業に対する資金・技術・産学連携など多面的な支援を引き続きお願いしたい。
82	商工業	研究開発型の企業、研究所にターゲットを絞って誘致してはどうか。
83		将来的には地場産業の発展が地域を支えていくと思われるので、県からはどのような地場産業がその地域にふさわしいのかのアドバイスをお願いしたい。
84		県内にある工業団地は、アクセス条件がよくないものがある。アクセス道路の整備をしてほしい。
85		長野地域に条件のよい工業団地をつくり、企業誘致をしてほしい。
86		産業面では、地域の特性を生かしシリコンバレーのような「地域のブランド化」を検討していく必要がある。長野は、大学、高専など教育機関が集中しているので、産学官連携した産業ブランドを構築できないか。
87		積極的な企業誘致をしてほしい。千曲市の財政状況を検証したところ、福祉や教育分野での歳出が増加する一方歳入は伸び悩み、また、これ以上歳出削減に取り組む余地は少ないようだ。歳入を増加させる策として、県が積極的に企業誘致に取り組んでほしい。
88		北信地域は県下でも経済状況が芳しくないため、活力のある、力強い活力ある産業となるような施策を実施してほしい。
89	観光	佐久を「人間回復ゾーン」と位置づけ、団塊の世代の移住を促進する基盤整備を進めることが必要である。
90		長野県出身の国際人を「特命全権大使」として、世界各地で長野県をアピールしてもらうはどうか。
91		観光にも地域格差が出てきている。どれだけ宿泊してもらえるか、「行きたい」から「暮らしたい」、「住みたい」と思わせる事が重要である。

92	観光地について単独でPRするのではなく、他の観光地と連携することにより、点から線、線から面で観光振興をしていくべき。
93	風林火山ののぼり旗をもっと出してアピールするべき。
94	団塊の世代や高齢者は歴史の深み等を求めて観光に訪れているので、求めに応じ満足してもらえる観光を提供していくことでリピーターの獲得につながる。
95	民間シンクタンクの旅行地域魅力度で上小地域は全国7位と魅力のある地域。しかし、東京の50歳以上の方の3割が上田を知らない。知ってもらうことが必要。
96	リピーターを獲得するには上小地域限定のものを出していかなければいけないと思う。
97	地元の観光業に携わる者として地元の知らない名跡・史跡を地元の人に紹介し、地元の魅力を再発見してもらうことにより、そこから（口コミ等で）外に広がっていく施策をしていきたい。
98	おもてなしの心と地域特産のおいしい食事の提供により満足度を上げ、滞在型観光となる仕組みづくりが必要。
99	地域住民が広く関心を持ち、地域行事に参加することにより、観光客の求めに地域住民が応じられる地域ぐるみの観光の提供が必要。
100	観光
100	県外から訪れる観光客は慌しく来て、帰っていく感じがする。信州はのんびりとしたイメージであり、のんびりと長野県下を楽しんでもらえるような観光施策が必要である。
101	各地区で観光に力を入れているが、道路、歩道整備やごみ問題などについて、県や国が観光地へ思い切った投資をすることが必要ではないか。
102	ホテル観光は独自性が見えない。環境保全をしながら、その環境に合った建物、料理など地域性、独自性を出す必要がある。
103	地域をいかに見せるかを考え、リピーターを増やす観光施策が必要である。
104	観光振興など中北信主体の戦略形態と思われるので、南信、特に上下伊那についてもお願いしたい。
105	観光業は民が先に走り始めて、それに伴って官がいろんな施策を打ち出してきた。今後の長野県の観光産業の活性化のために、官と民が融合して産業として確立していくことが重要である。
106	自然体験学校や体験民宿といった体験型の観光を入り口にして、この地域を気に入り、リピーターとなり、その中から定住したいという方がでてくればいい。
107	近くにあって地元の人には知っているがあまり観光化されていないところを、例えば「南信州100選」みたいなものを作って、お客様に入っていただくようなことを考えたらいいのではないか。

108	農業、林業を含めた横断的な観光展開が求められている。観光振興のため、ソフト面、ハード面でのバックアップをしてほしい。
109	長野県には、全国に誇れる観光資源があるので、観光立県のための観光戦略を盛り込んでほしい。
110	道路状況の悪さを逆手に取り、木曾で一泊してもらえるような観光戦略を。
111	観光客の減少は宿泊業が地域に密着しなかったことも要因である。宿泊業が地域の農業・工業・環境等と連携していく必要がある。
112	安曇野の景観は都会の人に魅力的で移住者も多い。都会の退職者向けに安曇野の空き家情報を提供する体制を充実する取組みが必要である。
113	この5年間は団塊の世代が多く退職するので、それに焦点を合わせた観光や農業の施策を展開してはどうか。
114	市町村を超えた広域的な観光の連携を図るために、県の支援をお願いしたい。
115	長期滞在観光や海外からのインバウンド（訪日旅行）を推進するためにも、広域的なパンフレットや案内板の統一が必要ではないか。
観光	
116	空港からスキー場へのバスの直行便の運行に対し、県として支援して欲しい。
117	スキー場の施設撤去費などに支援して欲しい。
118	富山、新潟などと連携した北アルプスゴールデンルート of 広域地図を作成するなど、取組を活性化させて欲しい。
119	点的でなく、面的な観光対策をしてほしい。（1つの観光地から別の観光地への交通網の整備など）
120	観光振興では、善光寺が中心的役割を果たしているが、善光寺裏側の駐車場に車を止めて参拝し、門前の店の前を通らない場合がある。街中に駐車場を整備し、善光寺まで歩いてもらうのはどうか。
121	観光については、1箇所の観光地だけでPRするのでなく、複数の観光ルートをまわる形を考えるべきだ。
122	観光振興については、旅館や交通機関など観光業者だけの問題ではなく、県民一人ひとりが主体者としての意識を持つことが大切。
123	外国語標識の整備などを図り、海外からの観光客誘致を促進してほしい。



124		松代、善光寺、小布施などの観光地が、一緒に観光PRに取り組むことが大切。
125	観光	松代のような日本独自の景観を守っていく必要がある。
126		定住の促進が図れないのであれば、交流人口を増加させる施策を考えてほしい。
127		鳥獣被害が増え、農作物が荒らされている。対策は国・県がやるべき。
128	農業	農業は経営面では安定しているが、技術継承・後継者の確保が課題である。
129		埼玉県では、学校給食の主食は全て県内産でまかなわれていると聞く。地域は、学校給食の地産地消についてもっとこだわってほしい。
130		食糧自給率は北海道の200%に対し、長野は53%。残りは他県から仕入れている。その輸送により地球温暖化になる。農業の後継者育成をして県内の自給率を上げることが必要である。
131		農業人口が減少している中、農業の担い手については、天候により収入が安定しないため若者に対して魅力がない。行政でも対策をとってほしい。
132		農業について上小は多品目少量生産である。農作物についてブランド化を図っていききたいので協力を求める。
133		農業でも観光は切り離せない。観光面でも泊まってもらい、農作物を食してもらいたい。
134		長野県の農業は小規模兼業農家であることが特徴。片手間でできた農業であることを踏まえて農業を考えてほしい。
135		農業関係者を取り巻く環境は価格の低迷、高齢化など大変厳しい状況を踏まえ、住民に農業の大切さを認識してもらうため、これまで支えてきた農業の水利施設の役割や必要性を住民に伝えてほしい。
136		松くい虫被害がマツタケの生産量に影響を及ぼすことが予想されるため、対策を講じて松山の維持をしてほしい。
137		今後は、食糧問題が重要。県内の自給状態を確認し、将来どうなるのかを考える必要がある。
138		消費に耐えうる環境保全型の農業への取組や現状を打開できる新たな取組を生み出すことが必要であり、その起爆剤となる財源の確保が必要である。
139	農村社会が崩壊すると、景観や農業の持つ多面的機能が失われるので中山間地域への取組を行う必要がある。	

140	食糧自給率を上げていく必要があるが、そのためにはバランスのとれた施策が必要である
141	農業を体験したことのある子どもが少ない現状であり、自分たちが口にする食べ物がどうやってできていくのかを体験から教える教育も必要。
142	農地を守らなければ水害・災害時に被害の拡大につながる。この観点からの取組も必要である。
143	諏訪湖のわかさぎ漁は平成10年を境に半減している。このままでは漁協の存続も危ぶまれる。原因を究明し、問題解決への施策を行って欲しい。
144	田舎暮らしを推進し、まちづくりを進めるため、農振除外や農地取得などの諸問題について、県も一緒になって対応を考えてもらいたい。
145	農畜産物の安全・安心が日本一になれるような、指導機関と農家が一体となる施策づくりが必要。
146	農産物の付加価値を高め有利に販売していくために、有機農業をこの地域でどのように広げていくかが重要である。また、この地域は中京方面に向けて販売をしていかななくてはいけないと思う。
147	後継者の育成を官民一体となって実施することが必要である。
148	酪農は休日がないのが一番の問題。休日をとったり、将来結婚して子育てをするためにも、信頼できる農業ヘルパーを育ててほしい。
149	少子高齢化で、農業の後継者不足が生じ、荒廃地も発生している。若い人に就農してもらえよう、品種の改良や魅力のある農業に取り組んでいきたい。
150	シカ、イノシシ、サルなどによる農作物被害が発生しているので、鳥獣害対策に取り組んでほしい。
151	農作物への猿害が深刻なので、対策を講じてほしい。
152	県でも遊休荒廃地対策に取り組まないと即、過疎化問題に繋がると思う。遊休荒廃地を減らしながら自給率を高めていくことで「安心・安全」に繋がるのではないかな。
153	農業委員会の農振除外の権限移譲について、県は重要な枠組の権限委譲はしないと聞いた。2 ha以下の農地の農振除外は市町村に任せてほしい。
154	農業に関する部分が少ないように思う。21世紀地球上の問題として人口、食糧、環境問題が3大課題である。
155	日本の食糧自給率はカロリーベース40%と低い。農業県として県内や松本地域の自給率をアップしてほしい。

農業

156	地産地消だけでなく、地消地産（地元で食べるものは地元で作る）という考え方を取り入れてほしい。
157	凍りもちなどの伝統食の作り方を知らない人も増えているので、食文化の担い手の育成にも力を入れて欲しい。
158	長野県は地形的に広大な農地を抱えている所が少ない状況である。こうした小規模農家を支えていく体制を盛り込んで、全国に先駆けた取組みをしてほしい。それが、定年退職後のいきが農業や健康づくり、また、地産地消にも繋がる。
159	日本を支えていくのはやはり農業である。長野県の農産物のブランドをもっと全国にPRしてもいいのではないか。
160	農業は人間の命に関わる根幹の産業なので、計画では部局を超えて、横のつながりをもった振興をお願いしたい。
161	計画は食と農業農村振興計画との整合性を図って欲しい。
162	中山間地域の農業は有害鳥獣の被害に悩んでいるので、国・県を上げた早急な取組を計画に盛り込んで欲しい。
163	農業は担い手だけでは守りきれない状況になってきているので、地域が関われる仕組みを整える元気の出る計画の策定をお願いしたい。
	<b>農業</b>
164	長野県の試験場で開発したりんご三兄弟の市場での評価が高いので、試験場や普及員の充実をお願いしたい。
165	環境にやさしい農業の取組を進めているが、そうした農産物が県下全体で販売に結びつくよう、県でコーディネートをお願いしたい。
166	中山間地は、農業後継者不足による荒地が広がっている。棚田やりんごの木のオーナー制度など、都会と中山間地を結びつけて活性化を図ってほしい。
167	荒廃農地対策、中山間地の有害鳥獣対策が必要。
168	消費者ニーズは多様化しており、新しい品種の栽培にも取り組んでいる。果樹試験場の研究や技術指導の役割は大きいので、より充実を図ってほしい。
169	緩衝帯を設けるなどによる獣害対策を図り、中山間地で安心して農業ができるようにしてほしい。
170	今「食と農」が極めて危険な状況にある。農を踏まえた食の担い手、食と農の繋ぎ手を育成するなど農の再生に向けた取組みを実施し、健全な食と農を次世代を担う子供たちに引き継いでほしい。
171	農業は産業振興の要であり、総合的な命を育む産業として位置づけるべき。

172	農業	北信地域のりんごは全国的なブランドであるが、りんご・ももに関しては、経済的に成り立たない(農業後継者がいない)のが一番の問題。後継者不足と高齢化で10年後は産地を維持できない。後継者の確保が課題である。
173		長野市で両親が栽培する無農薬・低農薬野菜を旅館で提供しており好評。中野市や北信の農家から渋温泉の料理の食材(野菜や特産品。無農薬・低農薬であればもっといい)を調達できるようにし、農業と観光が一体となって地産地消を進めてもらいたい。
174		有害鳥獣による農作物被害について、被害は広がる一方。高齢者の自家用野菜畑が荒らされ、耕作意欲が低下している。緩衝帯を設けるなど対策を講じてほしい。
175		国産木材が見直されているので、間伐を促進し、木材の安定供給を進めてほしい。
176	林業	林業後継者が育っていない。仕事の継続性がないことが原因の一つであり、安定的な仕事の確保をしてほしい。
177		昨年の集中豪雨による山地の崩壊はカラマツの人工林にも一因があるとの指摘がある。これからの森林整備の進め方について、間伐以外にも、植栽を含めた針葉樹、広葉樹の混交林の造成など、生態系や林層など地域にあった森林造成を計画的に実施してほしい。
178		現在の補助制度では森林整備が進まず県産材の利用も進まない。運搬経費や製材、乾燥施設や高性能機械への助成も含め財源措置をお願いしたい。
179		国の森林整備の施策や予算と県の施策についてこの計画の中で整合性を図ることが必要である。
180		野生鳥獣被害による被害が増えてきているので真剣に取り組んで欲しい。
181		間伐の推進、作業道路の整備などのハード面での支援、人材の育成、放置林を管理する対策、獣害対策(若者の費用負担を軽くして容易に免許取得ができ、獣害対策事業に従事できる若者を増やす)を講じていただきたい。
182		間伐・搬出の推進、林業の機械化、林道・作業道の整備が必要である。また、有害鳥獣害対策を進めてほしい。
183		地域材にどう付加価値を付けて、一般消費者に見せていくのかが勝負である。
184		間伐施業の強化に取り組んでいるが、作業道・林道の不足、機械化の遅れ、技能職員の技術力不足などの対策について、これまで以上の取組みをお願いしたい。
185		地域の材木を地域で活用できる仕組みを整えて欲しい。
186		県産材を活用した建築を行いたいが、材から水分を強制的に除去する施設が大北地域にはなく、大工などの職人が不足しているなど、地元の木を使いにくい状況にある。
187	間伐材の利用拡大を目指す「木づかい」運動を展開している。建物、机などに是非木を使ってほしい。	

188		77%を占める森林を「使う施策」がない。山は森林組合で手入れはされているが、地元の木を地元の住宅に使うなど地域で循環することが大事。木を地元で使う仕組みづくりがほしい。それが里山の復活になるのではないか。
189	林業	林務部(生産)と住宅部(使用・消費)のつながりがないように思われるので、しっかり連携してほしい。
190		森林は今ちょうど間伐しなければならない時期。担い手の養成、森林整備の財源の創設、地元産木材の利用促進策、間伐材の利用拡大、森林病害虫(松くい虫)対策に取り組んでほしい。
191		建設業界は、厳しい状況が続いており、業界全体の人材流出による技術力の低下が懸念される。
192		公共工事の落札は大手ゼネコンに集中し、地元建設業者が減少している。災害等非常時に対応できるのは地元建設業者のみであることを県は認識し、対策を講じてほしい。
193	建設業	道路舗装はアスファルトではなく、国内資源を活用したコンクリートにしてほしい。表面温度面・耐用面でも優れており、地球温暖化対策にもなるし、トータルコストは安く済む。
194		建設業は、事業量の減による廃業増加や若い人の就業が減少していることなどにより、体力が落ちている。これ以上事業が減ると苦しい。
195		建設業は大北地域の基幹産業の一つなので、地域経済を支えるために、当面公共事業をたくさんやって欲しい。
196		健全で優良な建設業者を育成するよう方策を講じてほしい。
197		都会からのIターン者と地元住民の摩擦が生じている。県や広域単位で地域住民とIターン者の架け橋となるセクションをつくり、Iターンの長野モデルをつくっていただきたい。
198		日本の次世代をどう育てていくかが重要。行政は、一人ひとりが活動していくという役割を先頭に立ってやってほしい。
199		経営者、後継者などの意識改革も含めた、いろいろな意味での人材育成が必要である。
200	産業人材	自分の町の企業では何ができるのか知らない子どもたちが多。工場見学など子どもたちにもものづくりに興味を持たせるなどの人材育成が必要である。
201		魅力ある地域として都会と田舎に暮らすマルチハビテーションを推進したらどうか。
202		地元の人定着するためにも工科短期大学を上下伊那に設置してほしい。
203		人がいてこそノウハウがある。技術の伝承の上からもノウハウのある人が長期間地域にいないことが必要。

204	産業人材	地域活性化、産業振興、教育の充実などのためにも、県のヒト、モノ、カネ、情報の全てを人材育成に投入して欲しい。
205		工業高校の生徒を対象に県のものづくりスキルアップ事業を実施しているが、機械の古さや材料の不足に対しては、会員である各企業が対応するなど頑張っている。ぜひ会の活動を見に来て、頑張っているところに対しては金銭面や大手企業の社員の派遣などの支援をお願いしたい。
206	雇用	雇用面が流動化していることが課題。安心して働き、暮らせる地域づくりをしてほしい。その結果、人が集まる。
207		例えば1日でなくて2時間でも半日でもいいとか、簡単な仕事をやらせていただくとか、多様な働き方を認めていただき、障害があってもその人の能力にあった仕事ができるような施策をお願いしたい。
208		定年を迎えても引き続き働きたいという人もいる。労働力不足の解消のためにも、有効に人材を活用してほしい。
209		地域経済活性化のために若者の労働意欲、労働の場を与える（拡大する）政策をお願いしたい。
210		高校生が卒業して働く場があり、地元に残ってくれるような施策を実施してほしい。
211	労働環境	製造業では人手不足が生じている。若者や優れた人材を集めるためにも生活環境整備の支援や、保育所の整備などによる女性が働きやすい環境づくりなどをしてほしい。
212		衣食住など生活基盤の整備、労働条件の整備により、勤労者が活性化することで、地域を元気にしていきたい。
213		経済状況が悪い中で、中小企業は経営に苦勞していると思うが、最低限の労働基準法は守ってほしい。行政は指導を重視してほしい。
214		医療、介護、福祉に従事する若者が減っている。給料が安いことが理由であり、最低賃金の引き上げを提言する。
215	保健・医療	医師の勤務実態はギリギリの状態。地域で働く医師の確保は急務。育児等で働けない医師等が働きたいと思える環境整備と魅力ある病院・診療所づくりを行政でしてほしい。
216		里帰り分娩に安心して対応できる新生児病床数が確保されていない状況にあり、地域連携を深めていく必要がある。
217		看護師は長時間勤務となっている。十分な看護師数の確保と安心して働くため、夜間対応できる託児所、託老所を確保・充実してほしい。
218		エイズ問題は広く住民に情報を伝えていかなければエイズ患者・HIV感染者数が増加していくので、地域で啓蒙活動してほしい。
219		医療現場は逼迫している。病院側だけでなく、患者側も医療現場では命を扱っているというリスクについて県民に再認識してほしい。

220	何を食べるか、どうやって食べるかを若い世代に伝えていく必要がある。非行に走る子どもやキレる子供がどういう食事をしているのか考えていく必要がある。
221	産婦人科、小児科不足が深刻。長野病院の産婦人科が強化病院指定を受けられない理由は麻酔科医の不足にあるため、麻酔医の確保をし、強化病院指定してほしい。
222	信大医学生や研修医に地域に根付いてもらうことを条件に補助金を出すなどの施策をとってほしい。
223	看護師不足が深刻であるが、新規就職した看護師の20%ぐらいが1年以内にやめてしまう。やめない仕組みづくりをしてほしい。
224	地域医療、在宅医療を支える医療・福祉の充実を図ってほしい。
225	地域・圏域などを包括的に考える医療政策を実施してほしい。また、高齢化が進む農山村などについて民と官の有機的な連携を図った対策が必要である。
226	医療界では、地方大学の医学部生の大都会への流出が問題となっている。対応が必要である。
227	医師不足に隠れがちだが、看護師不足も重要。看護師の養成について県の責任で行っていただきたい。
228	一人暮らしの老人が非常に多い地域であるが、病気など救急車を呼んでも道が悪く、一時間以上もかかる地域がある。防災ヘリをこの地域にも配置できれば何人も助かる人が出てくる。
229	2年ほど前、県が財政的な理由で一時休止した包括医療協議会を復活していただき、この機関を県全体の保健医療、福祉、災害などに活用してもらいたい。
230	木曾地域には、脳神経外科医師が常駐していない。地域の高齢化が進む中で、脳神経外科やリハビリ科など、老年者向けの医療の充実を図るべきではないか。
231	医師不足だけでなく看護師不足も大きな問題である。看護師が集まらなくて日々努力している病院も多いと聞く。地域で安心して医療を受けられるよう、医師、看護師の確保をお願いしたい。
232	予防対策の観点で保健補導員が活躍している。本県は長寿・健康県と言われ、老人医療費が一番少ない。しかし、1～2年で新潟県に代わられようとしている。人間ドックデータ6項目中、4項目で平均を上回り、特に肥満度は全国16位、39歳以下は全国で10番目に高い。健康についてこのような実情を踏まえて横断的な計画にしてほしい。
233	松本地域の老人医療費は8市町村で県平均を上回っている。松本地域としても健康というキーワードを前面に出し、充実してほしい。
234	産婦人科医、看護師が不足している中で、お産婆さんが病院に詰めて、外科の方が一人つけば、産婦人科の対応は難しくないのではないか。
235	高齢化に伴い医療費が増えている。働き盛りの方も競争社会でストレスによるうつ病や自律神経失調症などが増えている。対策が必要である。

保健  
・  
医療

236		医師不足、診療報酬の改定、介護保険制度の問題等、国の場当たりの施策により地方が影響を蒙っている面もあるので、地方からもう少し国へ意見を上げて欲しい。
237		長野赤十字上山田病院を地域の中核総合病院、緊急医療機関となるよう拡充強化されたい。
238		親が仕事を休めず、医療機関の時間外に子どもを受診させるようなケースがあり、救急医療体制に影響を生じている。
239		小児の二次救急については、長野・北信の圏域で医師が20人弱しかいない状態。一箇所に医療を集約するセンター方式の検討も必要か。
240		医療費の公的補助について、ウイルス性肝炎の外来医療費補助が打ち切られたが、これは患者の受診機会を奪い、その結果肝臓がん等の早期発見が遅れる懸念があるので、見直しを要望している。また、障害者の医療費自己負担増も問題である。
241	保健 ・ 医療	少子高齢化社会となり、老後を安心して暮らせるよう地域医療の充実を図ってほしい。
242		医師、看護師の育成に取り組んでほしい。
243		各家で伝えられてきた「何を食べて健康になるか」という知恵が、次の世代に引き継がれにくくなっており、高校生を対象としたおやきづくりを通して食生活バランスや健康づくりを考える活動に組織で取り組んでいる。食を通じた健康教育が今後ますます必要である。
244		県として最優先に取り組むべきことは、県民の安全。北信地域では特に北信病院をはじめとする地域医療の確保が重要な課題である。
245		秋山郷は観光地としては新しく、せいぜい2代目だが観光の担い手が不足している。若者の定住を促進したり、少子化を止めるのに、地域の医療の問題(医師不足)は大きな障害になるので、手厚い施策を講じてほしい。
246		「ふるさと回帰」には、安全で安心できる地域であることが重要だが、医療・福祉などが大きなネックとなっている。将来にわたって安心できるよう何とかしてほしい。
247		地域の医療の崩壊を危惧している。高齢者が多い地域であり、若い人が住んでいくためにも医療・福祉の充実が重要である。
248		障害者や高齢者が住みたい場所に住み、街の中で暮らしていくためには、移動手段の確保が求められるが、現状では充分とはいえない。障害者や高齢者の足の確保、移動手段の保障を県レベルでできないか。
249	障害者 福祉	介護の専門知識を教える学校をつくってほしい。
250		だれもが生活しやすい視点で最初からモノを造っていく必要がある。障害者が暮らしやすい社会になるには、「構造上のバリアフリー」よりも、「価値観としてのバリアフリー」が必要である。
251		昨年、自立支援法が施行され、県の障害者相談員の廃止が決定され大変困惑している。圏域に障害者総合支援センターができたが、実際は大きい地域に2、3人派遣されたとしても目が届かない。相談員の復活をお願いしたい。



252		計画の中に障害者にやさしい町づくりを取り入れてほしい。
253		知的障害者の就労は困難で、長い目で見ないと定着しないのが現状。企業の方に長期的にわたって指導して頂けるような施策を。
254		障害者が社会にできるために外に出る機会が多くなったが、スポーツ教室などの指導者が高齢化している。若い人が障害者に関心を持って、指導に当たっていただけるような方策を。
255		障害者が日常的にできるスポーツ教室など考えてほしい。
256		施設に通ってくる障害者のほとんどは通勤手段がない人たちなので、市民バスなどが活用できるようにしていただきたい。
257	障害者 福祉	障害者が地域の中で生活していくために多様な働く場の設定を進めていただきたい。
258		福祉に関しては、児童養護施設の改築、障害者の就労促進等の課題がある。障害者などの福祉について、全国に胸を張ることができる県になってほしい。
259		障害者に対する一定水準以上のサービス提供には行政の明確な関わりが必要である。計画に盛り込んでほしい。
260		知的障害者の福祉施設を経営しているが、財政が厳しいので国・県の支援をお願いしたい。
261		知的障害者への理解が深まるよう、知的障害者と地域住民が触れ合える機会をつくってもらいたい。
262		知的障害者の職場を開拓したいので、ジョブコーチの配置をお願いしたい。
263		障害者自立支援法による制度は、サービスを受ける側にも、提供する側にとっても問題点が多い。
264	高齢者 福祉	介護職や医師など専門職の人材を確保・育成する体制を望む。
265		高齢化社会に向けた、具体的な施策が必要なのではないか。（例えば、介護従事者を海外から受け入れる（そのための教育・財源）など。）
266		国民年金だけで生活するのは大変である。医療、介護についても検討してほしい。
267		団塊の世代が高齢者福祉のボランティアとして参加できるよう啓発活動をお願いしたい。

268		高齢者の一人暮らしが増加している。特養に入所できる程度ではないが、在宅での暮らしが困難な場合もあるので、そうした方の暮らす場の確保が必要である。
269		全国を上回って高齢化が進んでおり、バリアフリーの社会を他県に先立って実現してほしい。それによって、中小の建設業も潤うはずである。
270		認知症に対する地域の理解があまりに薄い。誤解されやすい病気であり、偏見や差別があるのが実態。自分たちも、30集落ほどに出かけ認知症講座を開催し認知症を通して人権を考える取り組みを実施しており好評である。認知症に対する理解を充実させたい。
271	高齢者福祉	要支援者は飯山学園の児童との交流で、双方がとても生き生きとしていたという経験から、幼児が宅幼老所に来るのではなく、これからは高齢者が保育園を訪れて、子どもたちとふれあうような施策が必要だと思う。
272		後期高齢者の4人に1人が認知症になる可能性がある。偏見をなくし、地域で見守ることが大事である。
273		各地域には立派な公会堂がつくられているが、ほとんど使われていないところもある。地域で週1回でも、月1回でも集まって一緒に食事するなどにより、認知症などの変化をみんなで把握することが出来る。
274		高齢化の割に要支援・要介護の認定率が低いことは、良い面だけではない。介護保険の認定申請をためらう実態もあることを留意すべきである。
275		住民の相互扶助による福祉のまちづくり、多様なサービスの提供、保健・福祉・医療の連携、市民・事業者・関係機関・行政の協働によるネットワークの構築が必要であり、計画にその理念を盛り込んでほしい。
276		親が子どもを育てることができないという問題に対して、障害者のタイムケア事業と同様、乳幼児を対象としたタイムケア事業を取り入れたらどうか。既存の保育所で対応できない部分は、民間の力を使う必要がある。
277		地域の福祉施設は高齢化による需要の増加に対し、人材不足・施設不足が起こっている。子ども・高齢者が安全・安心できる暮らしを地域で支えていくような取り組みをお願いしたい。
278		人と人が助け合えるような、支え合うような福祉の地域コミュニティづくりが必要。そういったことが、この計画の中、全てに影響してくると思う。
279	地域福祉	高齢者福祉や障害者福祉等に地域住民が関われる仕組みづくりを進めて欲しい。
280		中山間地の高齢化や、市街地空洞化などにより、福祉の組織を立ち上げて携わる人が不足しているのが悩み。
281		雪害救助員の業務拡大を要望したい。(対象範囲を広げ、物置や車庫の雪かきにも対応を)
282		合併で大きな市ができたが、中山間地へも目を向けた福祉施策を講じてほしい。
283		白鳥園の宿泊施設を福祉関係に有効利用できないか。

284	ボランティアやNPOと協力して地域づくりを進め、子育てできる環境を整備してほしい。その結果、Iターン等人口流入による人口増加につながる。
285	子供の人間形成をしっかりしないと少子高齢者社会は支えられない。子育てすることを通じて高齢者等に役割を持たせることが地域づくり、子育てにつながる。
286	諏訪地域の子育ては県下トップと言われている。地域の子供は地域で育てるという取組みを行っているが、行政の立場からも一層の御指導をお願いしたい。
287	地域の中で役立つ子供たちが育っていく環境が必要である。
288	お母さんたちが楽しく子育てできる環境づくりが必要である。
289	子育て支援に関して、子どもの人間性の豊かさの育成のため、情報化社会（メディア）についての視点を盛り込んでほしい。
290	幼児期の家庭教育が非常に大事である。働きながら子育てをする人への支援が必要である。
291	子育て支援に関して、勉強会などに出てこないなど、無関心な親への対策が重要である。
292	子育て
292	長野県では小学校に入る前の子どもの教育はほとんど保育所に任されている。施設依存型から家庭支援型の保育へ一時も早く転換し、家族の絆を強め、家庭の中の生活習慣や躰を通して親子の関係を形成する必要がある。
293	母親や父親を早く帰してあげる企業を行政が支援してほしい。
294	保育料や医療費の軽減など、子育てのための先進的な施策を行ってほしい。
295	子育てをする父母を支援する具体的な方策を講じてほしい。
296	子育て支援が大きな問題である。女性が一生働くには、働きながら子育てができる環境をつくる必要がある。女性が自立できる長野県を創ってほしい。
297	子育て中の母親たちが、子育て以外でつながりを持てるグループがあれば良い。
298	子育て世代の母親でも働くことができる環境を整えて欲しい。
299	子育て中の母親同士のネットワークを広げていけるような機会をたくさんつくって欲しい。

300	子育て	子育て中の母親が保育などの専門的知識を持つ人とのつながりを持てるようにして欲しい。
301		育児期を長野県で暮らしたいと思えるような県づくりをして欲しい。
302		育児休業の制度はあっても取得しにくいのが現状であるため、取得を義務化してほしい。また、全市町村で、病児の保育制度に取り組んでほしい。
303		児童クラブは低学年の児童で満員。区が中心となって地域で必要な施策をできるように支援をして欲しい。
304	男女共同参画	地域の女性たちが横の連携をより一層とれるよう、細かな情報を知らせてくれるとありがたい。女性が勉強する場を提供して欲しい。
305		優秀・有能な女性を登用を行政、企業、地域でもっと登用してほしい。若いお母さんが働ける仕組み、頑張れる仕組み・環境を作してほしい。
306		定年後の女性たちが社会参加できる仕組みづくりとともに、定年後の男性たちの社会参加を促す取り組みをお願いしたい。
307		男女共同参画社会の確立に向け、女性の正規雇用の拡大や雇用条件の改善を進めてほしい。
308	人権	障害者がいて当たり前、外国人がいて当たり前、高齢者が大勢いて当たり前、という当たり前が多様化、多彩化した地域にしてほしい。
309	国際化	外国人登録者数が多いが外国語と接することによる教育面等のメリットも出すべき。地域特性を生かしながら全体的に弱者の立場に立った地域づくりをしてほしい。
310		地域に住む外国人のニーズにどのように対応していくか、県がリードして各種団体と連携をとって施策を考えてほしい。
311		外国人への理解・多文化共生についても、県がリード・連携をとって欲しい。
312		在住外国人が4万人いるということは一つの市の規模である。労働者としても重要であるので、外国人の住みよい環境づくりは重要な課題である。
313		日本語ばかりでなく母国語までも不十分となってしまうセミリンガル状態の子どもが急増していることに対する施策
314		グローバル化の時代なので、この地域の中国人やブラジル人の方々から意見を聞くことが大事である。
315		毎週木曜日に日本語教室など開催しサポートしている。外国から来るお嫁さんはこれからも増える可能性があるので、このように意見を言える機会を増やして欲しい。

316	県土保全	地球温暖化により、水不足が懸念される。ダムを造り水を貯めることが必要。ダム周辺を公園にすれば、観光にも利用できる。
317		天候や気象に対する無関心な登山者が多く不安を感じている。天候、気象条件などの情報提供が必要。
318		子どもたちが故郷の山へ登る機会を増やしたい。子どもの頃から登山等体験学習をさせることが危機管理能力の向上につながる。
319		後遺症が残るような労災事故等を少なくする施策を採ってほしい。
320		災害対策の取り組みが不明確である。県HPの災害情報欄が不十分である。災害時における組織・指示系統を明確に情報公開するなど、県民への情報提供システムの拡充により安心してもらえる仕組みづくりをしてほしい。
321		地域ぐるみで防災対策する仕組みをつくってほしい。
322	防災	目先のことではなく、原因がどこにあるかを見極め防災・減災対策を行ってほしい。
323		防災の面で要援護者の名簿の作成が個人情報保護条例などで進まない。災害に対する情報について、今後の県の対応をお願いしたい。
324		外国人の災害時の対策と避難所などにおいての外国人への文化違いへの理解が必要
325		消防団は団員の減少、捜索活動の増加など取り巻く環境が厳しくなっている。消防団の活性化や消防団活動への企業や地域での理解促進をお願いしたい。
326		りもちを県で奨励するのはどうか。正月に防災訓練をしながら凍りもちを作って、作り方を教えれば自分たちで自分たちの食糧を貯めることができる。
327		空き家が増加している。防災、景観の面で配慮をお願いしたい。
328	防犯	犯罪は、本当に増えて、凶悪化しているのか、検証が必要である。国民総監視社会にならないように、犯罪の増加・凶悪化を前提とした施策を中期計画には盛り込まないようにしてほしい。
329	交通安全	道路整備は必要であるが、整備が進むと車のスピードが出て交通事故の危険性が高まる。道路の整備とともに、交通ルールの普及を徹底的にやってほしい。
330		旅行者であるドライバーのスピードを落とさない走り方と地元に住む人々ののんびりした感覚とのギャップが大きくて、いつ死亡事故が起きてもおかしくない。ドライバーの注意を引く、子どもたちやお年寄りなど交通弱者に気配りした看板が必要である。
331	消費生活	消費者として、品質の良し悪しを判断する基準がわからない人が増えている。なんらかの方法で、数値的な基準を示すことができればと思う。

332		地産地消、安心安全な食を推進していきたい。
333	<b>食の安全</b>	健康で長生きが最も大切と考えており、食育活動の推進を計画に盛り込んでほしい。
334		食育については小さいときから取り組むことが重要であり、学校、保育園でも取り上げてもらいたい。
335		高校の選択枠が少な過ぎる。
336	<b>学校教育</b>	他県はITを使い小中学校をつないで、わかりやすい教育を提供している。同じように上小の小中学校をITによりつないで、県と協力してわかりやすい教材の提供をしたい。
337		県民は市町村の教育と県の教育の区別がつかないため、市町村行政と県の関わり方をもっと明確に知らせるべき。
338		学力一辺倒の教育ばかりではなく、人と人との接する心の教育、家庭教育に力を入れるべき
339		子どもたちに自然を守る大切さ、環境を守るために今できることは何なのかを教えていく必要がある。また、日本人としての文化・誇りを教育していく必要がある。
340		心の豊かさはきわめて重要な視点であり、教育の体系づくりを欠いては心の豊かさは言葉だけで終わってしまう。豊かな情緒性というものを学校教育も含めてどのように子ども中に養成していくか、施策に具体的に位置付けてほしい。
341		世界と未来という考え方に加えて、地域において活躍してくれる人を育てる視点が重要。
342		これからの将来を見据え、小規模校をどのように魅力ある学校にしていっていいのかが重要課題として考えていただきたい。
343		学校がもう一度信頼される学校になっていくということが大事だと思う。同時に信頼される家庭づくり、家庭教育、信頼される地域の教育力も大事なので、計画の中に反映していただきたい。
344		大北地域にITなどを利用した大学院レベルの高等教育機関があって欲しい。
345		特色ある高校づくりや魅力ある高校づくりについては、卒業した生徒の受け入れ体制等も検討した上で、先を見た施策の実施を図って欲しい。
346	学校保健については、精神科、婦人科、整形外科医師も検診に参加したほうがいい。	
347	ゲームやITなどのメディアは、子どもの発育を遅らせたり、犯罪増加の原因となったりするという研究もある。批判能力を持ってメディアに接することが重要。子どもの健全な発育について、予防医学的な取組みを計画へ盛り込んでほしい。	

348		子ども一人ひとりに目が届くよう、少人数学級や副担任設置に取り組んでほしい。
349		子どもが自分で自分の身を守れるよう、防犯教育のための講師を派遣してほしい。
350		P T Aや学校行事の際の託児支援に取り組んでほしい。
351		障害のある子どもが地域の学校で学ぶことができるよう支援してほしい。
352	学校教育	少子化については、将来を見越して、通学区弾力化に取り組んでほしい。
353		スキー、スケートなど長野ならではのウインタースポーツに親しむため、インストラクター派遣やリフト代の補助などにより支援してほしい。
354		学校教育において、農林業や地域産業の体験学習を充実してほしい。
355		長野県らしさと人づくりは関連させるべき。長野県は教育の先駆的な地域。原点に戻り、人づくりの柱を一番にもってくるべき。学校教育、社会教育、家庭教育、食育、知育、徳育など縦軸・横軸の教育を総合的に強化し、人材を育成し地域の発展に結び付けていかなければならない。
356		小学校を統合しても依然として小規模校であることに変わりはなく、小規模校での充実した教育のための運営指針を示してほしい。
357		上小は歴史面では「自由大学発祥の地」でもあり、住民の学び場の提供を求める。学びの中から自治活動が生まれてくる。
358	生涯学習	生涯学習社会が叫ばれているが、社会で教育をしていくという社会教育を重視していく必要があるのである。心も体も安全に健康で生活できるという視点で考え、施策を行ってほしい。
359		子どもが社会の宝となるよう、大人への教育も必要ではないか。
360		民俗芸能を子どもに伝承していくためには、地元出身のやる気のある教員が地域で教えることができるよう教員の配置を考えることも重要である。
361	文化	スポーツのイベントに比べ、芸術文化のイベントに対する関心は低いように感じられる。是非国民文化祭を長野県で開催してほしい。
362		単独市町村では誘致が難しいコンサートなども、市町村が費用を出し合い、県が補助することで、実現できるのではないか。
363	スポーツ	総県民 1 スポーツ 1 学習 1 ボランティアを呼びかけて、健康づくり、人間づくりに役立てたらどうか。

364	スポーツ	松本地域に県営野球場を建設してほしい。
365		Mウェーブやスパイラルがナショナルトレーニングセンターの指定を受けたことに伴い、選手、観客の誘致、スポーツ医療の充実などに取り組んではどうか。
366	青少年	長野の有害自販機設置台数は全国8位である。青少年の心の育成や守るという観点から、良くないものは入れない体制づくりをしてほしい。
367		県の青少年保護育成条例がないことに賛成である。条例がなくても「子ども憲章」のようなものを掲げて、地域の子供も達は地域で守り育てる環境づくりを進めてほしい。
368	地域 活性化	行政は住民が集まり、話しやすい雰囲気をつくるなど「地域をつくる」ということのバックアップをしてほしい。頑張っている人たちを支援するような予算措置をしていただければありがたい。
369		一人ひとりが地域の活力を担う考え方をもち、地域のものを愛着を持って使うことを心がけるとともに、行政もそれを押し進める仕組みを作してほしい。
370		美しい日本人を忘れてしている。過疎地には素晴らしい、美しい文化・生活がある。それを守るために行政が一体となって引き継いでいかなければならない
371		上小地域編の地域特性に千曲川について入れてほしい。千曲川は環境や洪水対策、物流や漁業面で重要である。
372		安心して安全に暮らせる上田を望む。国分寺や国府があった歴史を顧みて、産業の中心であったことがわかる。その復活をしてほしい。
373		JT跡地に大型店舗が出店すれば中心市街地の空洞化がさらに進み、ゴーストタウン化してしまう。そこで環境が良いことをアピールして団塊の世代である定年退職者を都会から中心市街地に移住してもらえば市街地も活性化する
374		自然の豊かさ、地元文化・地元の魅力の再認識をしたいので力を貸して欲しい。
375		地域の担い手をつくるため、若者をまちの中にかにに住まわせるか、また、地域のアイデンティティを醸成することが課題である。地域の知恵や人材の連携を図ることが、地域の活性化につながる。
376		今は情報をどう使うかが重要である。そのことによる、シニア男性の居場所作りをもっと進めていくべきである。
377		まちづくりなどについては、行政による支援という形ではなく、公民協働でおこなってほしい。
378		この地域に住みたい、永住したいという環境づくりが必要である。
379	格差をなくすことによって、都会への人口流出を防げるのではないか	



380	地域住民が自ら地域を作る活動から、行政に対して住民が新たな地域づくりの行政サービスを提言していくという逆の方向がこれからの地方自治の中で重要になってくる。このことから地域づくり団体の育成を計画の中で真剣になって考えてほしい。
381	地域に住んでいる住民が直接関与するのは市町村であるので、中期計画でも市町村に対して県の行政がどのような立場をとっていくのかを真剣に考えていただきたい。
382	恵まれた自然など地域の個性を生かした故郷づくりに支援をお願いしたい。
383	行ってみたい、住んでみたいという温かい地域を創る上で、地域における人のつながりをどのように再構築するかが大切
384	若い人たちのIターン、Uターンを促進したい。都会から移住してもらえるよう住宅設備を整備してほしい。
385	他地域から移住したいので住む所はないかという話が時々あるが、どこへ相談したらよいか。また相談窓口を充実してほしい。
386	自然、文化、歴史がある「木曾路」は、ブランド力がある。もっとアピールして活用すべき。
387	市町村が一人立ちできるまで支えるのが県の役目である。一人立ちのタイミング（照準）を5ヶ年の5年目あたりに定めるべきではないか。
388	地域、仲間、伝統文化等を重視する教育を行うことにより、協力して地域をつくる機運も高まるのではないか。
389	大北地域は「自然豊かな北の安曇野」「緑の風」などと称して、PRしてはどうか。
390	内発的な地域おこしをするためには人材が大切なので、やりがいのある仕事や学び続けられる環境づくりが大切ではないか。
391	若い人達が夢を描き、情熱を持てるような地域をつくっていくことが大切ではないか。
392	上の世代の役目は、これからの若い世代が活躍できる環境を整えていくことではないか。
393	中心市街地活性化法による支援を積極的に行って欲しい。
394	地域に残る古民家などを財産として残していく意識を高めて欲しい。
395	北陸新幹線が開通すれば、長野は通過駅となる。中心市街地活性化の問題も含め、地域の活性化について検討を。

地域  
活性化

396	地域 活性化	商店街の活性化について、国の施策の対象とならない都市周辺地域に対し県が支援してほしい。
397		若者、大学などとも連携して地域づくりを行っていききたい。
398		知恵をつかって地域をブランド化し、小布施などのようにがんばっている地域をモデルとして発信できるといい。
399		都会の団塊の世代の人を呼び込んで地域を活性化させるために、国土交通省が提唱している「二地域居住」を県レベルでもPRして欲しい。
400		人口増対策として、豊かな自然に魅力を感じている人の都会から長野県への定住促進を。
401		大学と地域が連携し、地域づくりに取り組みたい。
402		中心商店街の活性化策について、商店街の関係者だけでなく多くの人に関心を持ってもらい、どんなまちづくりをするか一緒に考えていきたい。
403		自治会を核にした安心・安全なまちづくりを進める必要がある。地域の公会堂を利用し、地域に住む教員OBなどが協力し、子供たちや高齢者の安心・安全を確保するための事業に取り組むことが必要ではないか。自治会単位の自主的な活動が重要と思うので、元気な地域づくりを進めていくための支援をしてほしい。
404		施策はある程度大きなエリアでやっていかないとうまくいかない。人口は10万人を割ってしまったが、県が市町村合併の方向性を示すなどの後押しすることも大切ではないか。学校は中高・飯水などのくくりだが、どうも発展性がない。もう少し広域的な観点での検討が必要ではないか。
405		中心市街地の活性化、中心商店街の問題については、まちづくり三法が改正されたことはありがたい。後は、地域の人たちが知恵を絞って努力するのだが、県としても施策に織り込んでほしい。
406		日本の原風景を守っていくことが大事だと県外から訪れる人によく言われるが、地域の人になかなかそれを感じていないのが問題である。地域に誇りを持つことが地域おこしの基本。地域の人たちが自信をもって住める地域をどういうふうにつくっていくかを、みんなで大いに議論すべきである。
407		ここに住む者が立ち止まってしまったり、自信を失ってしまうことがないような政策を望む。
408		観光で潤っている地域で、新幹線が出来てから大きく潤ったところはないように思う。新幹線の駅が開業したときのまちのあり方を考えるため、ハードは出来上がっているし、関係者での議論だけではなく、住民レベルでの議論の場をつくってほしい。住民の議論で「駅」は生きてくると思う。
409	まち づくり	千曲川を県民の憩いの場とする。千曲川を安全な浅瀬にし、自然を体験できる整備をしてほしい。
410		地方行政は小型分散型開発にする。地方行政でできるサイズにする。

411	まちづくり	飲まれる水道水をつくる。簡素ろ過にすれば安い水道水が提供できる。
412		家の中はバリアフリーに出来ても、一歩家から外に出ると道路はどこも障害だらけ。電動車いす、外出先では充電するところもない。県産材スロープ、木製ガードレールの歩道側に手すりをつけるなど、バリアフリー化により、安全・安心なまちづくりをしてもらいたい。
413	ボランティア・NPO	福祉はきつい仕事と言われて人材がいない。また、自治体の変遷などが重なって地域福祉が分断化されている。団塊の世代の大量退職の時代なので、その人たちが行政主導ではなくネットワーク化、組織化され、地域に力を貸していただければ、産業、農業、地域づくり、子どもの教育の問題にもいい方向に進める力になるかと思う。
414		景観を守る運動をする中で、住民のやっている所へ県の皆さんに来てほしい。何をやっているか見てほしい。見て、意気込みを感じることをしてほしい。「自助・共助・公助」自分たちは自分たちで守る。守れない部分を多少（県に）助けてもらう。それを計画に盛り込んでもらえば、より一層良い方向に向く。
415		退職後の生きがい対策としても、ボランティア活動の充実を図ってほしい。
416		団塊の世代、学生のボランティアを結ぶネットワークをつくりたいと考えている。
417		NPO・ボランティアに携わる人材、それをコーディネートする人材の育成が急務である。
418		行政の計画で「協働のまちづくり」「アウトソーシング」ということがよく使われるが、行政はNPOの何を期待し、アウトソーシングで何をやってもらう考えているのか。具体的なものを示してほしい。それがなければ補助金頼みのNPO法人で終わってしまう。
419	高度情報化	インターネットで情報発信するときには観光や農業、林業と複合的に情報を提供しているが、県でも情報発信時に複合的な情報提供をしたらどうか。
420		2011年の地デジに対応できない共同受信施設がある。受信できる地域が1箇所くらいしかない。国の施策でもあるので、県としても情報格差がないようにしてもらいたい。
421	交通・道路	中部横断自動車道整備は地域活性化のためにも必要不可欠であり、八千穂IC以南一山梨までを整備計画区間への格上げ、早期完成を望む。
422		南佐久を結ぶ主要道路は国道141号線だけであり、災害や事故を考えると、県道川上佐久線が重要であるが、道路が狭く、非常に危険な状況にある。早期にルート決定をして完成させてほしい。
423		山間地域等細かいところの道路整備も考えてほしい。
424		交通が不便な地域にあってはバイクの免許を取るまでは自転車しかないし、保護者の送り迎えもできないので、子どもの通学手段を確保してほしい。
425		高齢者の健康づくりのために歩くことを勧めているが、線路や道路の横断中の事故、生活道路への車両流入など危険が増大しており、R20バイパスやJRの高架化など対策をとり安全を図ってほしい。

426	長野へ行くのに電車で2時間もかかり、場合によっては乗り換えが必要な場合も生じていることから、高齢者にとって負担となっており、対策をお願いしたい。
427	諏訪湖の周りの道路は交通量が多く、観光にとってネックである。バイパスを早期につくり、諏訪湖の周りの道路を走る車のスピードを落とさせることなどにより、観光客にとっても、住民にとっても諏訪湖が近くなるような施策が必要である。
428	日本風景街道の活動に、長野県として積極的に参加して欲しい。
429	南北間の格差を非常に感じている。特急を飯田線に乗り入れてもらう、新幹線に来てもらうなどをしていただかないと格差を感じたままである。
430	松本空港の国際化を進めていくなど交通は大切であり、時間の距離・利便性を高めていく必要がある。
431	名古屋圏との仕事が多いが、恵那山トンネルは危険物を積載した車が通れない。バイパスなど考えていただきたい。
432	対面通行ができるような道路がないと、高齢者の通院の問題だけでなく、通勤・通学が不便で若者が出ていってしまい、地域が崩壊してしまうのではないかという危機感がある。30年以上前から要望している国道256号の改良をスピード感をもってお願いしたい。
433	交通 ・ 道路
433	医療面で安心できないとその土地には人が住めないが、人口600~700人の町村で医師を雇うことは非常に大変なこと。道路事情を変えていただければ、医師一人で動ける範囲が広がり、それぞれの村に医師を配置しなくてもよくなる。
434	三遠南信自動車道の青崩峠の一日も早い着工など社会資本整備をしっかりとやっていただきたい。
435	J R東海が発表した2025年のリニアモーターカー開通について、見当がつかないので探っていただきたい。
436	木曾地域で、代替道がない地点が何箇所かあるため、医療の観点からも、道路整備をしてほしい。
437	道路事情が悪く救急車が通れないことがあるため、木曾地域が一体となって高圧線の設置に配慮するなどにより緊急用ヘリコプターを活用できる環境づくりをしてほしい
438	木曾地域における高齢者の移動手段の確保が必要。医療機関や買物へ行く際の公共交通手段がなく、タクシーを利用している人も多いため、なんとか改善を図ってほしい。
439	観光振興、企業誘致のためにも、国道256号、木曾川右岸道路などの道路整備が必要。
440	地域住民の足としての公共交通について、自治体主導の新しい交通システムへの転換を図っている。これにより、交通弱者の移動手段の確保については、形になりつつあるところである。
441	松本は新幹線もなく交通アクセスが悪い。佐久・上田と松本空港間の新幹線の導入、高速道路の建設をお願いしたい。

442	交通 ・ 道路	外国との交流を考え、松本空港の滑走路を2,500mに延長し、国際線が就航できるように提案する。
443		松本地域は地震の危険度が非常に高く、山岳道路が多いため、道路の改修、耐震強化を進めてほしい。前倒ししてでも進めてほしい。
444		サラリーマンが活用する交通網として、中央西線は最終が名古屋発19:00であり不便である。早期対応をお願いしたい。松本始発の特急「しなの」があれば、1時間早く出て、遅く帰ることができる。
445		冬場の峠は想像以上に危険がある。筑北村（本城）から安曇野市（明科）を結ぶ403号線の改良（矢越隧道）を一日も早くお願いしたい。
446		地域間格差の解消、工場誘致等のためにも、基幹的道路網の整備をお願いしたい。
447		日本風景街道の取組を計画にも盛って、施設整備やPRを推進して欲しい。
448		高規格道路の整備促進を図って欲しい。
449		千曲市の冠着橋を早急に拡張整備してほしい。
450	全体 その他	教育県として人に配慮し、人づくりに力を入れてほしい。
451		是非この場の提言を将来的でも構わないので活かしてほしい。
452		行政がアプローチすべきこと、住民がアプローチすべきことを分けて計画に入れてほしい。
453		外から来る人の目線を計画に入れてほしい。観光面等のニーズがわかる。
454		借金をしない、お金のかからない、持続可能で共存共栄をする社会をつくる。
455		高度な技術が必要とする施設をつくらない。高度な技術を要するとお金が大企業にいった地域にお金が残らない。
456		観光と農業、観光と環境といったようにカテゴリーと別のカテゴリーを結びつけ、街づくりを活性化させてほしい。
457		災害情報に関する提言が施策等に反映されたのか、若しくは計画策定後どう反映されるのかを県民にわかるようにしてほしい。

458	各産業の明確な産業政策ができていないので、それを策定してほしい。
459	大事なのは差別化志向よりも、当たり前のことをきちんとやること。県も市町村、地域、団体と一緒に取り組む独自の手法を入れてほしい。それを実現するために必要である行政や職員の既存体制を変えるパワーアップを計画に入れてほしい。
460	素晴らしい環境に相応しい暮らし方とそれを享受できる術や意志を持つことが大事であり、人間が変わらなければならない。
461	総花的にならざるを得ないが、メリハリのある計画とするとともに目標を具体的に分かりやすく数値化する必要がある。
462	総花的にならざるを得ないが、より県民に身近な数値目標と、長野県並びに各地域のより具体的な将来像をどのように描くかが大事である。
463	これからも十分に県民の意見をふまえて計画の策定をしてほしい。
464	中期計画などの将来ビジョンの提示は大事である。実際の行動は、理想は民間主導型だが、行政の施策の中で行っていただきたい。
465	分野を細分化して具体的に示すことができる計画にするべき。
466	緑、清い川、水、空気を活かした県づくりができるような施策がほしい。
467	信州という響きが大きな求心力を持っている。これは大きなブランドであり、自然と豊かさが感じられて魅力につながるので、前面に打ち出していくことが必要。
468	ゆとり・豊かさは大事な思いが述べられているが、今後施策としてどう具現していくかむずかしい。理想像だけ拾っても中期計画としていい形ではない。各地の懇談会などの意見をこれからまとめて、具体的にどのように進めていくのか考えてほしい。
469	マイナス面だけでなくプラス面をさらに活かしていくことにより、豊かな子どもが育ち、青少年が生きられ、そして職場につくような計画としてほしい。
470	便利さと安全と観光はバランスが取れないものだと思う。観光によって人を大勢呼び入れていくと失われるものもあると思う。
471	教育の現場で税金とは大切なものだと教えることに、年に1，2回でいいので協力していただきたい。
472	長野県は非常に広いので、中期計画では、北信、東信、中信、南信に分けて、取り組んでもらいたい。
473	民が先に立って、行政側がフォローするような形でやってほしい。

全体  
その他

474	木曾地域は、人口の1/3が65歳以上であるが、今後の人口推計を明らかにした上でそれをふまえた施策を展開し、そのための財源確保について検討すべき。(例えば消費税率に1%上乘せし、介護のための施策にあてるなど)
475	既存の制度を変えるぐらいの意欲が必要。
476	これまでの計画の達成率を検証し、反省点をふまえて新しい計画策定に取り組むべきだ。
477	長野の水を利用している他県の企業等にもっと費用を負担してもらってもいいのではないか。
478	前回計画の結果について、検討をすることが大切。
479	5ヶ年という短いスパンのため、計画が総花的にならないよう、抽象的な言葉ではなく具体的な施策を盛り込んでほしい。
480	キーワード「田舎五重奏」、「偉大な田舎長野県」は大賛成である。田舎でのゆっくりとした生活をイメージさせるような良い言葉を見つけてはどうか。
481	既にある各施策と乖離しないよう、整合性のとれた計画としてほしい。
482	長野県の売りは、おいしい空気、水、風、山、川だと思う。
483	地域の目標として、抽象的な言葉ではなく、具体的な施策に結びつく健康、環境、持続可能などの言葉(ロハス)を用いてメッセージを発信して欲しい。
484	計画書は子育て中のお母さんたち一人ひとりにも届くような形であってほしい。
485	民間も含め、それぞれの組織や機関で長期計画等を策定しているが、せめて業種毎に同じ計画期間で策定した方が情報を共有できるのではないか。
486	実効性のある計画として欲しい。
487	計画については、総花的でなく「選択と集中」の形にしたほうが効果があると思う。
488	「迷惑防止条例」を制定し、自然豊かで清潔感のあふれる信州をつくってほしい。
489	広域連合と地方事務所が同じ地域を管轄しているが、両者の人的・財政的融合ができれば、行政の簡素化にもつながり、国の地方分権の受け皿にもなりうると思う。

全体  
その他

490	全体 その他	様々な分野の人を一堂に集めて、短時間で意見を聞くこのような懇談会が、アリバイづくりにならないようにしてもらいたい。
491		今日は、非常にユニークな人が集まり「地方事務所もこうしたことをやってくれるんだ」とは思うが、ここに来ている人の意見が北信の意見を代表しているわけではない。よい地域とは、平和であること、災害がないこと、犯罪が少ないこと、医療が受けることができること、雇用があり収入を得られること、ではないか。
492		これからは、「官民」でなく、「民官」であるべき。民の活動を官が迅速にサポートする体制をつくってほしい。
493		少子高齢化対策はあるが、人口増のための施策が弱いのではないか。人口減で栄えた国はないと言われている。人口増を図るための施策をしっかりと位置づけてほしい。
494		官がやること、民がやることを明確に区分にしてほしい。
495		県民に分かりやすい計画にしてほしい。例えば全国と県の施策の違いが分かるようなコメントをつけてほしい。
496		この懇談会を甘く見ていた。みなさん、地に足ついた発言をされ自分が恥ずかしい。この会をこれで終わらせず、分野別に意見を聞く機会があればよいと思う。



